

愛知県(県域)

1 産地の概要

<対象品目> 水稻
<産地の現状・課題>

年々、カメムシ類による被害が拡大している。カメムシ類による被害は斑点米の発生だけでなく、出穂期に飛来して加害するイネカメムシにより不稔が発生し減収した事例があった。防除適期がわからず薬剤散布回数が増加していた。また、農薬の飛散抑制を考慮する必要がある。

イネカメムシの発生予測、薬剤防除試験、生育診断ツールAgriLookを活用した水稻の出穂期予測を活用することで、効果的な防除体系を確立し防除回数の削減を図る。ドローンの活用により効率的かつ省力的防除について検討を行う。効果的な防除体系の確立と省力的防除方法によりカメムシ類による被害を抑制する。

2 検討体制

<愛知県組織と関係機関等の役割>

- ・ 農業経営課(事務局)
- ・ 農業革新支援センター(実証ほの調整、技術指導、検討会の開催、栽培マニュアルと産地戦略の作成)
- ・ 普及指導センター(実証ほ運営管理、調査、出穂期予測、検討会の参加)
- ・ JAあいち経済連(技術支援、検討会参加)
- ・ JA(調査補助)
- ・ 農業者(実証ほ管理、技術の検証)



乗用管理機 → ドローンを活用した省力で計画的防除を実施

3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量低減	病虫害管理	<取り入れる技術> ・AgriLookによる出穂期予測 ・農薬の飛散防止
		<見込まれる効果> ・出穂期予測とカメムシ類の適期防除 ・粒剤使用による飛散抑制

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
病虫害管理	<取り入れる技術> ・ドローンによる防除
	<見込まれる効果> ・労働時間の削減(35%以上)

4 活動内容及び今後の展開

<活動内容>

- ・ カメムシ類の発生消長調査とAgriLookによる出穂期予測で薬剤防除試験を実施し、防除適期と防除効果を検討
- ・ 出穂期と出穂期10日後の液剤2回防除が防除効果が高い
- ・ 粒剤防除は効果が判然とせず、液剤防除の代替防除として提案

<今後の展開>

- ・ 普及指導センターによる地域の実情に合わせた防除体系の検討
- ・ 農業総合試験場の試験成果の現地導入